

## 山口市と連携して地方創生の一翼を！



会報の発行も早いもので、第3号となりました。みなさまのご協力に感謝申し上げます。

さて、山口七夕会も設立されてから17年目の秋を迎えました。

会員のみなさまのご尽力のおかげで、会員数も若い方や女性にも

多く入会いただき、過去最高の391名に達し、協賛をいただく法人会員も昨年度は12法人に加入いただきました。

山口本部においては、幅広い年代の方々が集い、活発に活動されており、山口県内の会員数も144名に達しています。今後も山口本部を通じて山口市との連絡を密にし、「人と情報の交流」を行う中で、ふるさと山口市に寄与することができれば幸いと考えています。

東京本部においては、山口県東京営業本部や公益財団法人防長倶楽部と連携して、同郷会や同窓会のネットワークに加わり、会員のみなさまと集う場、ふるさと山口を味わう場の企画立

案などに加わっております。この関係で新たに山口県東京応援隊の中で活躍されている「NPO法人ふるさと山口経営者フォーラム」の杉山会長や中馬常務理事にも7月の東京での定時総会に参加いただいて交流と懇親を深めたところです。今後は、広く山口県全体の発展に寄与する活動にも手を携えて行きたいと考えています。

私どものふるさと山口市におかれましても、今、東京圏からのアクティブシニアの移住を促進することなどにより地域の活性化を図ることを目的とする「山口市生涯活躍のまち」構想を秋の公表に向けて検討されています。私たちは、この機会をとらえてこれまで以上に山口市との連携を深め、東京から、そしてふるさと山口の会員と協力して郷土山口市の発展に貢献したいと考えています。

山口七夕会は、東京本部と山口本部を両輪にして山口市の地方創生の取り組みに積極的に協力していきますので、会員のみなさまのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

平成28年10月

山口七夕会 会長

八木 健一

\*\*\*\*\*

### ＝目次＝

◇八木会長/挨拶-----	1	◇会員寄稿	
◇祝辞		「今の私」/児玉秀文-----	5
山口市長 渡辺純忠-----	2	「山頭火の会」/北野 彩-----	6
山口市議会議長 重見秀和-----	3	「山口県応援隊東京本部交流会参加」/椋山俊哉	
◇活動の記録(平成27年7～12月)-----	4		7
【東京本部】定時総会兼東京本部(H27年7月)		「萩往還を歩いて」/利重尚義-----	8・9
【山口本部】山口本部総会(H27年8月)		「憧れの「萩往還」に挑戦！」/山根和也-----	10
【山口本部】秋の講演会(H27年11月)		「ふるさとの風」練習会/山根和也-----	11
【東京本部】交流会No.23(H27年12月)		「豊洲ふれあい納涼祭り」/久家菊美-----	12
		【編集後記】	

# 祝辞



山口市長

渡辺 純忠

山口七夕会の会報第3号の発行につきまして、心からお祝いを申し上げます。

会員の皆様には、平素から、ふるさと山口の発展のために御尽力いただいておりますことに対しまして、心から感謝を申し上げます。

さて、去年は、平成17年10月に山口市、小郡町、秋穂町、阿知須町、徳地町の旧1市4町の合併により新山口市が誕生して10周年、平成22年1月の阿東町との合併より5周年の記念すべき年でありました。

山口都市核では、中心市街地の「一の坂川交通交流広場」や商業施設と一体となったマンションの完成、湯田温泉の観光地域づくりとして「狐の足あと」や「井上公園」の整備、小郡都市核では、新山口駅橋上駅舎や南北自由通路の整備など、本市のまちづくりが着実に目に見える形になってまいりました。

また、去年10月には、少子化、人口減少問題に取り組み、地方創生を推進していくためのアクションプランとなります「山口市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定いたし、地方創生の取り組みを本格的にスタートさせております。この総合戦略では、100のプロジェクト事業を位置づけまして、子育て、教育環境の整備をはじめ、若い人たちの働く場の創出など、魅力的な都市づくりを展開してまいります。

こうした中で、現在、その取り組みの一つとして、アクティブシニアの本市への移住定住を促進するため、「山口市生涯活躍のまち構想検討委員会」を立ち上げ、「生涯活躍のまち(日本版CCRC)構想」及び基本計画の策定に向けた検討を進めており、首都圏と本市との連携強化に向けて、山口七夕会の皆様にもお力添えを賜りたいと考えております。

また、この他にも、本市の新たな10年の挑戦として、平成30年度からの10年間の計画期間とする「第二次山口市総合計画」を策定いたしますとともに、シティセールスの絶好の機会となります平成30年の明治150年に向けて、亀山公園山頂広場の再生など、様々な取り組みを進めているところでございます。

こうした取り組みによりまして、「これが私の故里だ」と、多くの市民の皆様が誇りと愛着を持って生活できるまちづくりを、これからも全力で進めてまいります。

山口七夕会の皆様におかれましては、ふるさと山口の力強い応援団として、引き続き、御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、山口七夕会の今後益々の御発展と、会員の皆様の御健勝と御多幸を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

# 祝辞



山口市議会議長

重見 秀和

この度、山口七夕会の会報第3号が発行されることにつきまして、心からお祝い申し上げます。

さて、私は今年5月に、新市誕生後の山口市議会第8代目の議長に就任いたし、7月に東京で行われました定時総会に初めて参加させていただきました。八木会長様をはじめ、会員の皆様におかれましては、ふるさと山口を愛し、本会の活動を通して相互の交流を図られながら、本市の発展に多大なるお力添えをいただいておりますことに、深く敬意を表しますとともに、厚くお礼を申し上げます。

さて、御案内のとおり、本市は平成17年の山口市、小郡町、秋穂町、阿知須町及び徳地町の1市4町合併に加え、平成22年の阿東町との合併により、市の面積は1,023平方キロメートルを超え、全国1,700余りの市町村の中で29番目の広大な市域となりました。北は島根県境から南は瀬戸内海まで南北に長く、広い市域の中に多様な地域特性を有し、豊かな自然のほか、地形や気候を活用した数多くの地域特産品を産出いたしております。先の定時総会で決定された本会の「チャレンジプラン2015to2020」の取り組みにおいても推進をいただいております「ふるさと納税」は、おかげをもちまして、昨年度寄付金額は2億4,000万円を超え、前年の4倍と大きな伸びを示しており、寄付に対するお礼の品として、これら特産品をお送りし、喜んでいただいております。

市議会といたしましても、平成24年に山口市ふるさと産業振興条例を議会の提案により制定いたし、本会議や委員会審査での一般質問をはじめとする議会活動の中で政策提案を行うなど、本市のふるさと産業の振興につながるよう日々努めているところでございます。

ふるさと納税返礼品のほかにも、再来年(2018年)に迎える明治維新150年関連事業や日本プロサッカーリーグJ2で健闘中のレノファ山口など、本市を盛り上げる素材は、まだまだ多くございます。これらを起爆剤として、条例の目的でもあります、ふるさと産業を育成し、活力のある地域の経済社会の形成及び市民生活の向上に寄与することが、まさに「地方創生」へとつながるものと考えており、積極的な取り組みを進めてまいり所存でございます。

会員の皆様におかれましても、是非、ふるさと納税制度を御活用いただきますとともに、ふるさと山口のPRと、ふるさと山口への応援を引き続きよろしく願い申し上げます。

終わりに、山口七夕会のますますの御発展と会員の皆様のなご一層の御健康と御多幸、御活躍を心よりお祈り申し上げ、お祝いの言葉といたします。

＝平成 27 年度山口七夕会定時総会を開催しました＝

平成 27 年 7 月 25 日(土)、東海大学校友会館において石田副会長の進行で定時総会を開催しました。

八木会長の挨拶に続いて、山口からおいでいただいた渡辺市長、原市議会議長様から挨拶をいただきました。

続いて、会則に則り、八木会長を議長に選出して定時総会の議事に入り、すべての議案が承認されました。



講演会では、山口本部楽農部会長の関 和貴氏に「スローライフ at 徳佐 with 山口七夕会」と題したお話をうかがいました。その後の懇親会は、石田副会長の乾杯の音頭でスタート。和気あいあいとした雰囲気の中、締めは武内副会長が元気一杯に執り行い、お開きとなりました。

＝平成 27 年度山口本部総会を開催しました＝

平成 27 年 8 月 16 日(日)、「西の雅 常盤」(山口市湯田温泉)において山口本部総会を開催、57 名が参加しました。

総会に先立つ講演会では、○山仲秀子会員○白石奈美会員○法人会員(榊村重酒造/代表取締役社長/村重雅崇様の三人から卓話形式でお話をいただきました。続く総会は、児玉/山口本部長の挨拶からはじまり。来賓代表の吉田副市長、原市議会議長様からご挨拶をいただいた後、全ての報告、議案が承認されました。

懇親会は、八木会長からの明治産業革命遺産の世界遺産登録決定の報告、関係各位への御礼などの挨拶の他、新しい会員や会員の関係される同窓会の活動状況を報告いただきながら和やかに懇親の輪が広がっていました。



＝山口本部「秋の講演会・交流会」を開催＝

平成 27 年 11 月 21 日(土)、「西の雅 常盤」(山口市湯田温泉)において、平成 27 年山口七夕会山口本部「秋の講演・交流会」が開催されました。

児玉山口本部本部長の開会挨拶の後、吉田副市長より来賓挨拶が行われ、「山口市生涯活躍のまち構想検討専門委員会」へ、山口七夕会から委員を選出していることへのお礼と、市の発展に向けて今後も引き続きの協力をお願いされました。

続いて、「やまぐち萩往還語り部の会」ガイドで地元歴史研究会「大内倶楽部」会長の古谷眞之助先生の、

「萩往還と花燃ゆ」と題した講演会の後、交流会が開催され、参加者全員による



ダンスや、退任される児玉本部長への感謝の花束贈呈など盛りだくさんの内容となりました。

＝東京本部「秋の講演会・交流会」を開催＝

NHK 大河ドラマ「花燃ゆ」効果や世界遺産登録などにより山口県への関心が高まるなか、山口本部に続き東京本部でも古谷眞之助氏による「萩往還と花燃ゆ」と題した講演会・交流会を開催しました。

平成 27 年 12 月 12 日(土)、東海大学校友会館にて行われ、60 名以上の方が参加。講演内容は 3 部構成で、萩往還と NHK 大河ドラマ「花燃ゆ」に関してユーモアたっぷりにお話いただきました。



懇親会では藤村啓氏が瑞宝重光章をご受賞されたことのご紹介や、新規で 20 代～30 代の方々のご参加があり、新たな仲間が加わりました。最後に渡邊幹事の指揮で「山口県民の歌」を歌い、ご挨拶をいただき閉会しました。



「私の今」

私の現役時は転勤族で、定年を迎え山口高校卒業以来21度目の引越で故郷の山口市へ42年振りに帰りました。終の棲家と決めましたが、人生は分らないもので家庭の事情により今回千葉市へと22度目の引越をしました。

しかし、山口での7年間は高校卒業後では最も長い居住となり、親を見送ることも出来多くの思い出が出来ました。

山口では「人の出会いとネットワークを大切にする」をモットーに50以上の会に所属して活動し、故郷への恩返しもある程度出来たように思います。一方、東京近辺に住む3人の子達はマイホームを建て孫も6人となり、山口へ帰って来る可能性はなくなりました。そこで、妻と二人の老後を熟慮した末に、終の棲家を変更し子供たちの近くに移住することを決断し、去年の春から種々検討の結果年末に引越しました。

東京には4度勤務しましたので、籍の残っている各種会が10以上あり友人・知人も多くおりますが、子供3人が近くにマイホームを建て孫も6人いますので、これからは妻と孫中心の生活をしようと考えております。

児玉秀文(会員No.228/前・山口本部長)

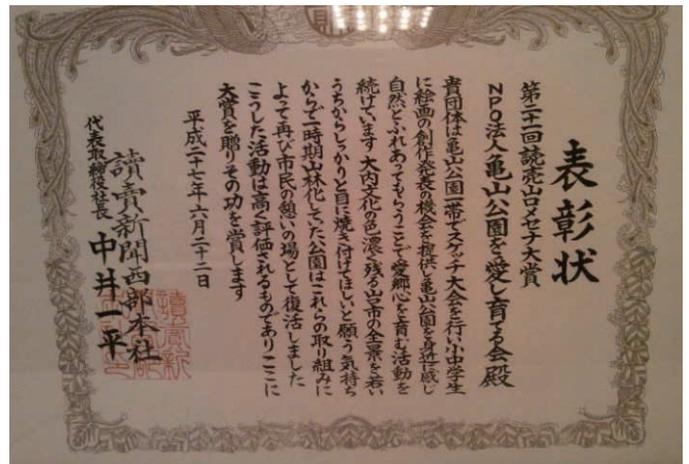
皆様には山口での7年間大変お世話になり本当に有難うございました。今後も墓参りなどで最低年に一度は山口へ帰郷する予定にしておりますので、引続きよろしくお願ひ致します。

平成 28 年 2 月

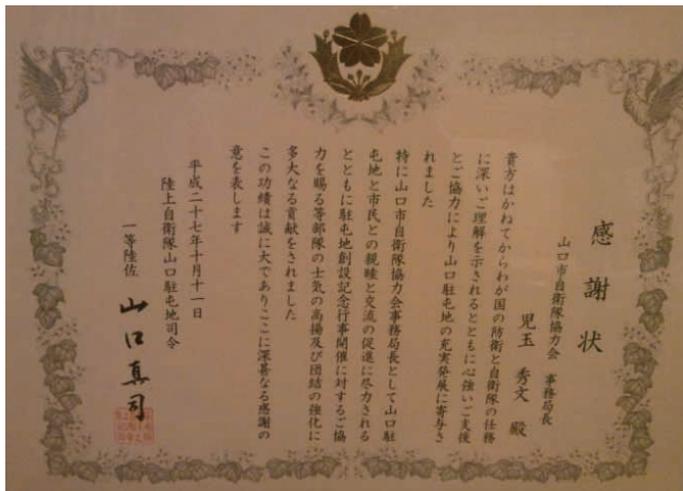
<山口の思い出>

10月まで山口を去るとは公に話しませんでしたでしたが、不思議と最後の年に各種受賞が重なりました。

10/3 山口市誕生10周年(広域合併後)記念式典特別表彰を山口七夕会山口本部長として八木重二郎会長に代わって受賞したこと以外に、



【6/22 読売山口メセナ大賞(NPO亀山公園を愛し育てる会副理事長)】



【10/11 陸上自衛隊山口駐屯地60周年記念式典感謝状(山口市自衛隊協会事務局長)】

『山頭火の会』(山口七夕会/協力事業)に参加して！

北野 彩(参加者/特別寄稿)

平成 28 年 3 月 10 日(木)、「さんとうか」の日、山口県ゆかりのお店「お宝処なかむら」がある、ニュー新橋ビルの地下 2 階で、清酒「山頭火」を堪能する「山頭火の会」が山口市の後援を得て行われました！山口大好き、日本酒、「山頭火」が大好きな多くの皆さんが会場に集まりました。

乾杯の御発声は発起人でもある高村正彦自民党副総裁より頂きました。その中で高村氏と金光酒造は御親戚であるというお話が！思わぬエピソードに、乾杯前から心が温かくなり、また会への期待が高まっていることが、会場の雰囲気より感じられました。

乾杯後はA～Fのテーブルに分かれ、美味しいお酒と山口の美味しいおつまみを味わっていましたが・・・さすがは山口、そして山口のお酒がお好きな皆さん！あっという間にテーブルや初対面という垣根を越え、楽しそうにお話をされていました。

会の半ばには、宇部市出身、宇部市ふるさと大使でもある真真(しんしん)さんが、美しい二胡の音色を披露して下さいました。会の当日はとても寒い日でしたが真真さんの温かいお人柄が、二胡の美しい音色を通して会場にいる皆さんを包んでいらっしゃいました。

また、太刀川芳恵さんのワークショップ「日本酒のアカデミックな世界」、山口県東京営業本部の武林正治さんの応援の挨拶や山口市経済産業部の藤本緑さん、神足万里子さんから山口市の物産PRなどで会を更に盛り上げて下さり、あっという間に会は終盤へ・・・。



最後に「お宝処なかむら」の中邑健二社長(山頭火東京後援会会長)が締めめの挨拶をされている時、金光社長の目には涙が・・・金光社長はこの日の会を楽しみに、しかし、緊張と不安も同時にお持ちで迎えられたとのことでした。金光社長の涙を拝見し、金光社長の熱い想いを感じたことで、私たちの胸にも、なお一層込み上げてくるものがありました。

後ろ髪を引かれながらも、片手には書家・末岡翠香さんのカレンダーと、お酒のお土産が入った袋を握りしめ、また来年も「山頭火の会」が開催されることを強く願い、皆さん、帰宅の途につかれたのでした。



【高村発起人代表/挨拶】



【八木会長/挨拶】



## 「山口県応援隊東京本部交流会参加」

平成 28 年 4 月 22 日(金)、霞ヶ関の東海大学  
校友会館にて、山口県応援隊東京本部交流会  
が開催された。山口七夕会からは八木会長、山  
縣幹事長を始め、吉松幹事、岡本事務局長、久  
家さん、荒瀬さん、梶山が参加。

第一部は村岡  
嗣政山口県知事  
のご登壇でスタ  
ート。冒頭、九州  
地方で発生した  
地震災害に伴い、  
山口県も加盟し  
ている九州知事  
会メンバーとして、熊本県御船町に緊急消防援  
助隊を派遣したとの報告があった。



次に県知事による県政紹介。「活力みなぎる  
県づくりへの挑戦」のための様々な施策が披露さ  
れた。中国地方でも突出している人口減対策。  
産業活力の強化と中堅・中小企業の成長を支援  
するための、県産品を首都圏に売り込む山口県  
版「地域商社機能」の構築、女性の流出に歯止  
めをかける「女性創業応援やまぐち株式会社」や  
「まちなか創業支援施設」の設置・運営。「やまぐ  
ち観光維新」を推進するための平成の薩長土肥  
連合や国際連続チャーター便の運行。県内へ  
若者の定着・人の還流・移住を目指した、産学公  
の連携。結婚・出産・子育て支援のための「やま  
ぐち結婚応援センター」の運営を始めとした各種  
施策。JAXAや水産総合研究センターといった  
政府関係機関の県内移転推進など、県知事の  
熱い思いが伝わる内容であった。

最後に山口七夕会梶山東京本部長の私が  
「山口県が元気になるためには、市町も元気に  
なる必要があり、そのための県の支援策」につい

### 梶山俊哉(会員No.579/東京本部長)

て質問したところ、各市町に設置する県民局が  
市町の活性化プラン作りに関わり、首長とも連携  
を図っていくとの明確な回答が示された。

続いて山口県東京営業本部長の河村氏より、  
山口県応援隊東京本部・平成 28 年度活動方針  
(案)が示された。「やまぐちIJU(移住)サポーター」、  
「やまぐち観光サポーター」、「ぶちうま！や  
まぐちサポーター」として、首都圏におけるふるさと  
山口県の情報発信や売り込みの強化に積極  
的に協力する方針が、満場一致で採択された。

第二部は交流会。防長倶楽部理事長でもある  
八木会長のご挨拶に続き、山口出身の元小結・  
豊真将関、現在は山口ふるさと大使を務める立  
田川親方のご発声による乾杯で開宴。山口ふる  
さと大使でもある女性創業応援やまぐち株式会  
社の杉山代表取締役や、生きの良いながとFRO  
Gsの若手達からのメッセージが場を盛り上げた。

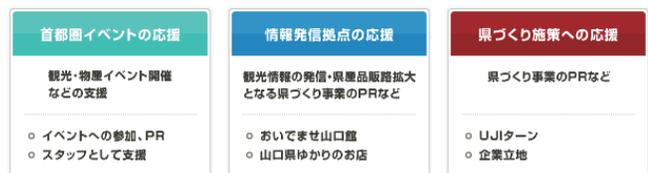
参加した山口県の在京同郷会・同窓会のメン  
バーは、故郷山口の話題、地元の食材、そして  
ずらりと並んだ山口の地酒で大いに英気を養い、  
東京から山口の活性化や各種施策を支援するこ  
とを誓い合った。

山口七夕会東京本部も、そうした活動の中核  
を担い、山口市の地方創生・活性化に貢献する  
ことで、山口県の挑戦を支えていくことを改めて  
強く意識した次第である。

※「山口県応援隊東京本部」は、趣旨に賛同する在京の同郷会、  
同窓会その他本県ゆかりの団体をもって構成。山口県の情報発  
信、県産品の販路開拓、観光資源の売り込み、UJI ターンの促  
進などをテーマとして、有志により支援。



#### 隊員の皆様に応援していただく活動例



「東京発着ツアー行事 萩往還ウオーク」

萩往還を歩いて

利重尚義(会員No.367)

私は、昭和26年4月父親の転勤で当時の吉敷郡大内村御堀に転居し、8日に大内小学校に入学しました。通学路は、往還(萩往還)を東に進む道と、近か道になる仁保川沿いの土手道と田圃道を通る道がありました。おおよそ半々の頻度で通学しました。時には「粋な黒塀見越しの松に仇な姿の・・・」と歌いながら！

一方、旧山口市内に行くには、往還を西に進み外郎の福田屋さんの前を通り、<sup>わにし</sup>鰐石橋を渡るのが唯一の道でした。この道の記憶は、夏の「おぎよんさま」や「七夕提灯祭り」そして映画を観に行く楽しみとほぼ同一になります。当時は往還の呼び方に、多くの人々が行き交う道の総称で「何処にでもある大きな道」との感じで、殿様が参勤交代で使うために整備した「<sup>おなりみち</sup>御成道」とまでは意識していませんでした。そう言えば何処となく街道松も有った様な気もしますが定かではありません。これが私の萩往還との最初の出会であり、子供の頃の記憶とともに、心の原風景となっています。

後年、東海道五十三次・山の辺の道の一部(奈良県)や熊野古道の一部(和歌山県)を歩くにつれ、萩往還は全行程を是非歩きたいとの思いを強くするようになっていました。

歩くのであれば、山口七夕会の皆様とご一緒にとの思いもあり、幹事長の山縣さんにささやきました。「会員の皆様と是非一緒に歩きましょう」と！結果、山口七夕会のイベント「東京発着ツアー行事」の一つに組み込み「山口100萩往還マラニック大会」に相乗りで歩く事になりました。

平成28年5月4日、山口から萩までの「歩け歩けの部」に、山縣さんと高校同期の山根さんと3人で参加しました。当日は晴れ、暑くも寒くもなくこの上ない条件でした。北は北海道、南は鹿児島から多くの参加者がいて、美しい女性の参加もありました。

朝6時に山口(瑠璃光寺前)を出発、ゴール萩



(陶芸の村公園)到着は15時で9時間、昼食1時間を差し引き実質8時間、距離35km 高低差500mの行程でした。

出発すると間もなく、高校同期の藤村さんから応援の電話を頂きました。有り難う。途中で枝きれに山口七夕会の旗を結び付け、なびかせて歩きました。



【左/利重、右/山根】

一升谷と言われる、当時の石畳が残る個所はかなり急峻で道幅も狭く1間有るか無いかでした。

毛利の殿様の<sup>かご</sup>駕籠かきは、この様な急な坂道をどの様に担いだのだろうか？

前の駕籠かきは両手を下げ、後ろの駕籠かきはバンザイをして支えたのだろうか？或いは、横に<sup>かに</sup>蟹歩きをしたのだろうか？道幅は狭いし無理かな・・・？これでは殿様も歩いた方が楽そうだがそうはいかないのだろう！ましてや<sup>かんそう</sup>檻送される吉田松陰先生は外を歩く訳にはいかなかっただろうに！とか、つまらない心配をしながら歩きました。

全国の殿様も、2年か3年毎に1回260年間、大なり小なりこの様な難行苦行と甚大な費用負担を、繰り返し強いられた訳で、こりゃ大変だ、大名支配は絶妙だね。

大変だけど、いいことも有ったよ、街道の整備や各地の物産・文化の交流などがもたらされたに違いない。

一方、殿様は、所領の繁栄(今でいう地方の活性化)に<sup>くしんさんたん</sup>苦心惨澹したはずだ。

などと、よけいな事も考えながら、励まし々々、汗を拭き々々ひたすら登りました。

途中いくら登り坂に苦しんでいても、250kmを制限時間48時間で走り抜ける選手に出会うと、思わず道をあげ、「頑張れ」と応援しました。

涙松、ここは旅人が萩城下を遠望できる往路は最後で復路は最初の地点と言われていたそうです。松陰先生が江戸に送られた時に詠まれた

「帰らじと思ひ定めし旅なれば  
ひとしおぬる涙松かな」

の松樹は、道路整備工事で誤って切り倒されたと

の事で、現存していなかったのが、大変残念でした。意外と街から近く、さほど高い所でもなかったのが印象に残りました。

ここから先は一路下り、ゴールの萩「陶芸の村公園」へひたすら、そして到着。天気良し・風良し・緑良し、加えて仲間良し・ビール良し でした。

帰りは、幹事長の特別なお計らいにより自動車で、前日雨で流れた行事「田植え会」の予定地であった七夕会会員で阿東徳佐にお住まいの関さん宅を訪れ、農業の様子をいろいろ教授頂いた後、エールの気持ちを残して山口に向かいました。



【阿東徳佐にて左から利重・関・山根】

翌5月5日は、山口(瑠璃光寺前)から三田尻御茶屋(英雲荘)、に向けて8時に山根君と兄上夫妻にお見送り頂き、一人でスタートしました。大内長野付近までは中学卒業以来、56年振りの道歩きで、実に半世紀以上が過ぎ去っていました。新しい道が出来ていたせいか往時の雰囲気が残っていたので、大変なつかしく感じました。

それから先は、初めての道でもあり案内標識も少なく萩往還(旧街道)にこだわったため、分岐点の見分けに苦労しました。その一ヶ所が、下小鯖の「終神社」付近でした。うろうろしていると、山根君が兄上夫妻と車で応援に来て下さった。有り難う。

地元の親切で美しいお嬢さんが、わざわざスマホで検索して教えて下さり、何とかクリアできました。鯖山峠で弁当を食べ、15時に三田尻御茶屋に着きました。18kmに7時間もかかりました。うろうろが垣間見えます。

殿様は、三田尻御舟倉から海路、大阪を經由して京都伏見に向かわれたようです。陸路よりも楽で便利だったのでしょう。瀬戸内海とはいえ、明石海峡をはじめ狭く潮流の激しい海峡や灘が待ち構えていても、納得できます。それに、毛利水軍はかな

り優秀だったらしい。

萩往還の完歩に残るのは、萩市内の萩往還と三田尻御茶屋から三田尻御舟倉への道です。その先は、京都三条から伏見(鳥羽街道)を経て大阪京橋までの京街道です。更<sup>せきぶね</sup>にその先は海路が待ち構えています。関船(参勤交代で使われた軍船)とはいかないので、ヨットかな？

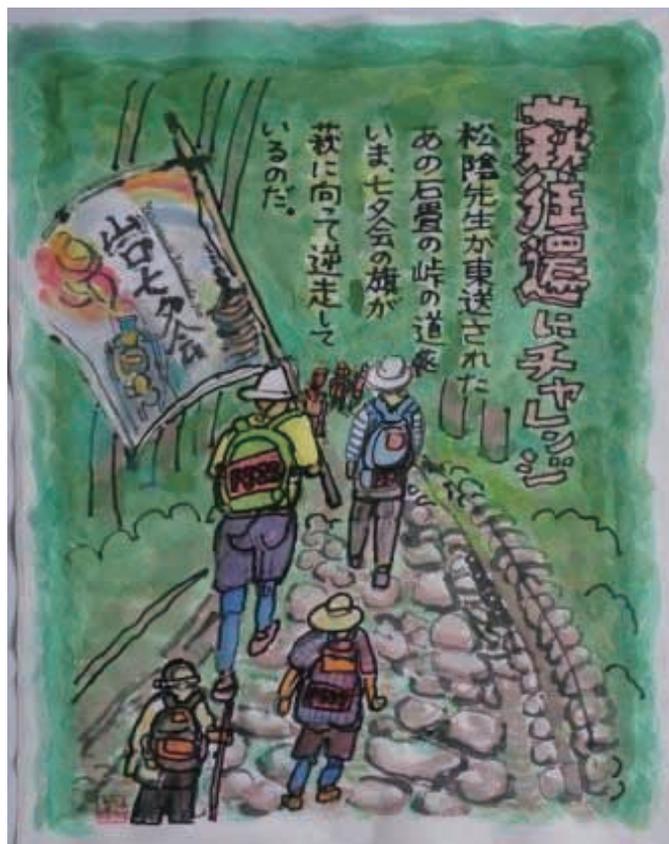
夢は続きます。

道中の旨い物や名所旧跡・風景等の味わいも格別です。また、自動車やバスで興味ある場所まで行って歩き始め、適当な所で切り上げるのも一案！ 皆様如何ですか！！

前々々日の5月2日は、萩往還の大内長野近辺に在住し地元で活躍した小学時代の友垣数人と56年振りに会って酒盛り(もちろん酒を酌み交わすのも初めて)、昼前11時から予定時間を大幅に超え、夕刻5時まで飲みっぱなしでした。楽しかった！

そんな訳で、その日の午後6時から開かれた、山口七夕会懇親会の記憶はまだら模様、失礼しました。有り難うございました。山口市経済産業部ふるさと振興課の皆様、多くの皆々様。

平成28年8月



【絵/山根和也(会員No.39)】

## 『憧れの“萩往還”に挑戦！』

山根和也(会員No.39/横浜青葉区在住)

語り部の会シニアガイド・古谷眞之助先生の「萩往還と花燃ゆ」の講演を聞いたとき決めた。大河ドラマの歴史的ファンタジー性についての講話は印象的だったが、先生が描かれたスケッチ絵はもっと刺激的だった。そして、<萩往還マラニック大会>歩け歩けの部(35km)にエントリーを決意した。

5月4日、当日の朝6時瑠璃光寺集合。香山公園の駐車場から6時半ころから歩き始めた。登り坂ばかり続くきつい前半。萩までは片道35km。実質50kmはあるといわれるハードなコース。昨夜の大雨は嘘のように上がったが、濡れた坂道はこの厳しさを物語るようなぬかみの連続。遅れてスタートしたカラフルなマラソン人たちがドンドン追い越して行く。

今回同行したのは幹事長の山縣さん(ゼッケン番号F-523)、同期の利重さん(F-528)と筆者

(F-537)の3人。坂道で拾った小枝に山口七夕会の旗を結んで、奇兵隊の行軍さながらに黙々と歩いた。しかし長い坂道に段々と無口になってくる……。今も当時のまま石畳の道や街並みが残る。吉田松陰や高杉晋作、伊藤博文ら維新の志士たちの足跡をたどることができた。

萩市に入り佐々並の市を過ぎた処でお弁当支給。急な山道を雨水から守るため、先人が築いた幅狭い一升谷の石畳を抜けると明木。毛利氏が江戸への参勤交代の御成道として開かれた萩往還は歩くだけでも歴史の息吹を感じさせる峠の街道だった。

萩城址近くのゴールで味わったビールと蒲鉾の味は今も忘れることはできない。

(尚、利重氏は次の5日も防府まで歩き、全長53kmを完全踏破したことを記しておく)



## 『ふるさとの風』 東京の山口七夕会/定時総会でデビュー！

平成 28 年7月 23 日の山口七夕会定時総会で山口市民の歌というサブタイトルのついた、新しいテーマソング『ふるさとの風』を参加者全員で歌うことができ、大きな反響を呼ぶこととなった。

いつもは、『山口県民の歌』か『吉田松陰』という有名な作曲家による少し古風な名曲を歌ってきたが、『ふるさとの風』は初挑戦、曲の存在さえ知らなかった。いつもの歌よりアップテンポ、しかも今風のアレンジがいっぱいで、メンバーにはなかなか馴染みにくい。

そこで、この曲の制作に携わった＜アートふる山口実行委員会＞にご協力を依頼。早速送っていただいたCDで練習開始。練習場はコーラスメンバーの意向で横浜青葉区の地区センター＜本の家＞。元洗足学園音大講師・落合新一先生に直接ご指導をいただくこと数回、真夏の特訓。



【練習会の模様】

当初は山仲秀子さんのピアノ伴奏で練習開始したが、耳慣れないメロディーとフレーズの多さと今日的アレンジに年配者の多くが悪戦苦闘した。当初のピアノ伴奏からインターネットの YouTube 活用による自宅練習に切り替えたのが奏功し、各々の自宅練習のおかげで、落合先生から褒められるレベルに達したのは何と定時総会前日のことだった。何とか間に合ったのがうれしい。いつか山口七夕会で＜ちひろ＞ライブを期待したいものだ。

さて、この歌は合併で拡大した新山口市のテーマソング。

山根和也(会員No.39/横浜市青葉区在住)マソング。市民からフレーズを募集、500 件近い応募の中から山口市出身のシンガーソングライターの＜ちひろ＞が作曲した山口市民のテーマソング。

尚、25 年ぶりのセ・リーグ優勝を勝ち取った広島カープの本拠地・広島球場(8月30日・対横浜戦)の大観衆の前で、＜ちひろ＞が国歌斉唱を見事に歌い上げたことを記しておく。



【定時総会で「ふるさとの風」を歌う七夕合唱団のみなさん】

<山口市の HP より>  
山口市の「歌」情報発信元：総務課  
「山口市民テーマソング制作委員会」が旧 1 市 4 町の住民に向けて公募、制作した「『ふるさとの風』 山口市民の歌」を市民歌としました。  
阿東町との合併により歌詞が一部追加され、新しい山口市の歌になりました。

SLの汽笛が 山にこだまし  
新しい旅の 扉開かれる  
光り輝く 海を臨み  
夢に向かって 飛び立つ  
さららの空 羽ばたく鳥のように

おいでませ 西の京  
おいでませ 山口へ  
サビエルの鐘の音にのせて  
今日も 心歌おう

葉の花揺れる あせ道歩けば  
お遍路さんの 笑顔に出会い  
重源上人の 知恵を学び  
時を超え 浪漫求めて  
深き緑 駆け抜ける風と共に

おいでませ 西の京  
おいでませ 山口へ  
ふしの川の清き流れにのって  
明日へ 漕ぎ出そう

維新の風を背に受けて  
私たちは育まれてきた  
今再び咲かせよう  
大内文化の大輪の華を

おいでませ 西の京  
おいでませ 山口へ

※山口市の HP より楽譜や歌・曲をダウンロードできます。<http://www.city.yamaguchi.lg.jp/>

## 豊洲ふれあい納涼祭

久家 菊美(会員No.601/東京本部事務局)

8月6日(土)、芝工業大学豊洲キャンパス中庭にて「豊洲ふれあい納涼祭」が行われました。昨年豊洲に拠点を構えた山口銀行・豊洲支店と山口市が納涼祭の協賛をされており、山口七夕会東京本部も協力事業として山口展(山口銀行と山口市のブース)の運営をサポートしました。

幸い?お天気にも恵まれ、午後2時からのお手伝いは暑さとの闘いでした。

山口市ブースのテントには七夕提灯と山口七夕会の旗も掲げさせて頂き、各自ができることをお手伝い。売り物は山口みかんゼリー(氷水で冷やすとおいしい、山口産のみかん100%で作ったみかんゼリーです)、



チキンチキンごぼう(湯煎してパックに詰め替えと真空パックのままの二種。山口市発祥の家庭料理で学校給食の人気メニューです)、車エビの味噌漬け(解凍してフライパンで焼いてパック詰め)、阿東産のお米です。



隣のブースでは山口銀行さんが山口県の地酒を販売。瀬祭で有名になった山口の地酒を求めて来られるお客様もたくさんいらっしゃり、その流れに少し便乗させて頂く作戦を展開しましたが、暑さのせいか思うように売れません。車エビは一匹400円! 実はとても安く提供しているのです。とはいえ売



りしかない! 炎天下のもと、テントから出て直接お客様に声をかけたり、瀬祭の瓶を片手におつまみをお勧めしたりと、各自工夫をしながらの売り子さんです。

夕方からは子供連れのお客様も増え、みかんゼリーは飛ぶように売れて完売。



車エビも山口銀行さんのご協力により売り切ることができました(山口七夕会は18時半までのお手伝いでしたので市の方からのご報告です)。



久々のお祭りでの売り子のお手伝い、暑い中でしたが皆さんと協力しながら、時には大きな声で呼びかけたり、とても楽しいひと時を過ごすことができました。



山口市から来られた職員の方々、お手伝いに出られた山口七夕会の皆様お疲れ様でした。



\*\*\*\*【編集後記】\*\*\*\*\*

「会報 山口七夕会」も第3号となりました。山口七夕会と歩んだ一年や「今の私」など幅広いテーマでの会員のみなさまからのご寄稿をお待ちしています。

会報編集委員会 委員長(副会長) 武内衛子

\*\*\*\*\*